令和３年１２月２４日発行

第２号

芦北支援学校 進路指導部

**進路情報**

新型コロナウイルス感染対策をしながらではありますが、卒業生の追支援が少しずつできるようになってきました。その中で、卒業生の進路先であるくまもと芦北療育医療センター職員の方々から「施設での生活をより充実させるために教えてほしいこと」を話していただきました。今回は、卒業後の生活を充実させるために施設職員の方からの情報について掲載します。

**追 支 援**

学校を卒業して３年間、利用施設を訪問して連携を図っています。

卒業に際して、進路先の施設や関係者との「移行支援会議」で、学校での様子を写真等で詳しく伝えることで卒業後の充実した生活につなげていきます。



一人にじっくり関われる時間が短いので、興味関心が高い活動は、関わる上でとても参考になり、活動の幅が広がるので、とても有り難いです。

① 興味関心が高かった活動

会議では、在学時に興味関心が高かった活動について、学校での写真等を基にお伝えしています。卒業後の余暇活動や行事に向けた活動の中で、取り入れて活動を組み立てられているそうです。卒業生の中には、在学中に興味関心が高かったウクレレや指筆などでの活動を取り入れたことで、活動を楽しむ姿が見られるようになったそうです。



② サポート時の工夫

支援時の工夫を知ることで立ち位置など、ちょっとした違いで活動のしやすさなどが変わるので、とても有り難いです。

会議では、学校生活の中での支援の工夫についてお伝えしています。卒業生と関わる際に「こんな道具を使ったらうまくいったよ。」「サポートする時の手の位置はここがいいよ。」など、ちょっとした工夫は、とてもヒントになるそうです。



③ 本人にとって不快な情報



いろいろな情報は、じっくりかかわっていないと分からないこともあるので、とても有り難いです。

会議では、基本的に本人にとってよりよい支援の工夫についてお伝えしています。生活の充実のためには、施設職員が、本人にとって嫌な音や触り方など、どんな些細なことでも知っておくことが大切です。例えば、嫌な音を聞いた時の本人の様子などが分かると、その他の関わりでのヒントにもなるそうです。『嫌だった』ことなどを知ることは、子どもたちの生活を充実させる支援にもつながるそうです。

**学校や家庭で本人について当たり前と思っていることが、大切な情報だったり、**

**充実度につながったりします。これらは、現在の施設利用でも活用できる**

**ことだと思いました。**

『キャリア・パスポート』について

　訪問教育の授業で『キャリア・パスポート』を目にされた施設職員から、「分かりやすくて良いですね。」「こういうのを見せてもらえると助かります。」「参考になります。」「卒業生は持っていないのですか？」などの声がありました。『キャリア・パスポート』は、児童生徒に関わる方々に見ていただくことで、児童生徒の励みになるだけでなく、生活の充実につながるツールになることを実感しました。

